

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU

CHARTERED 1995



2015~2016年度 No.200

9月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界



強調月間：ユース（ユースボランティア・リーダーズフォーラム）

那須ワイズメンズク



8月例会（納涼例会） 8月27日(土)

2016~2017年度 主題
国際会長：(IP) Joan Wilson (カナダ)
「私たちの未来は、今日より始まる」
アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)
「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事：(RD) 利根川 恵子(川越)
「明日に向かって、今日働こう」
北東部長：長岡 正彦(もりおか)
「明日のために、今土台を築こう」

クラブ役員 事務局
会長：田村 修也
副会長：村田 榮
河野 順子
書記：荒井 浩元
会計：鈴木 保江
担当主事：荒井 浩元
ブリテン：田村・村田

7月例会データー(出席率：100%)
在籍者 6名
例会出席者 6名 メネット 3名
コメント 2名ユースリーダー 2名
ゲスト 9名

今月の聖句
わたしの魂よ、主をたたえよ。
主の御計らいをほひとつ忘れてはならない。

詩編103：2

東京目黒クラブ 那須クラブ
9月 Happy Birthday
15 村野 繁メン 10 原田時近メン

巻 頭 言

副会長 河野順子

元来、私はおせっかいの性格である。良く言えば世話好きであろうが、人によっては大きなお世話と解釈されかねない。過日、県内の「結婚アドバイザー」と称する皆さんの前で、大きなお世話なる講話をしてきた。それは、県内の独身若者を中心としたシングル生活者を何とか縁を作って結婚ができるアドバイスを皆さんと一緒にいきましょうという内容である。全県あげて取り組んでいる事業であることを聞き、さらにその中で栃木県が一番、独身若者が多いと伺い、深刻なことに勝手に私は思っている。いろいろの考え方や環境があるので、一概にこの現象をどうこういうつもりはない。ただ、この人たちの中に結婚を望んでいるにもかかわらず、出会いがないとか縁がないということで、一人でいることは勿体ないと思う。「2035年どうなる日本の家族」で御茶ノ水女子大学名誉教授 袖井孝子氏は警鐘を鳴らしておられる。以下、氏の話から私なりに理解したことを記してみたい。

家族の変化では、1960～70年代の高度経済成長期に農業や自営を継いでいた子どもの中にサラリーマンが増加してきた。核家族（子ども2人が標準家族）「家付き、カー付、ばばあ抜き」という言葉が出現し、70年代には既婚女性の社会進出が目立ち、75年には国連女性の10年に当たり、同年合計特殊出生率1.91となり、以後低下し、未婚率の上昇と単身世帯の増加となっている。この間、61年には国民皆年金皆保険制度が制定され、東京では老人医療費の無料化が実施され、このころから社会的入院という言葉が目立ってきている。90年には出生率1.57（丙午）があり、パラサイトシングルという言葉も生まれた。2000年に介護保険つまり外部サービスの導入が始まった。2012年地域包括ケアというシステム生まれたと聞く。時代と社会の変遷・流れは、若者だけでなく国民全体への大きな影響を及ぼしている。そのことによって、**家族形態**は今や急速に変化している。

- ・標準世帯の消滅：夫婦と子ども二人が標準だった
- ・家族のいない単身世帯の増加（ファミレス社会という）
- ・三世代世帯の減少：子や孫と暮らす高齢者は稀
- ・多様な家族のかたち：同棲、同性婚であれば**家族機能**はどうなるのか
- ・家族機能：家族が社会と個人に対して果たす役割

・社会的機能：社会の安定化、社会秩序の維持、家族は社会の基礎的単位

・個人的機能：心身の安全と安定の確保、夫婦の愛情、子育て、介護など

余儀なくシングルマザーやファザーになることもあるが、そもそも育ちの異なる男女が常に一緒にいること自体難しい。しかし我慢もあろうが、それにもまして子育て時期の喜びや感動の共有、自分一人では得られない多くのものは代えがたいものがある。家族機能が成さなくなっても、外部がサポートする仕組みはできた。

たとえば、家庭保育から集団保育へ

在宅介護から施設介護へ

在宅死から病院死へ と変わっていった。

外部では、有償となる。残された家族の子育てなどは弱者と化する。専業主婦は無償労働である。しかしながら家族での役割は重要であると私は思う。家族機能の弱体化することによって養育機能、教育機能、介護機能など家族が（すべてではなくても）行うことで、家族の結束、子どもへ継ぐもの、喜びや悲しみの共有などがあるはずである。自分の経験からも振り返ってみると、就業していながらの子育てはかなりの体力がないと続かない。今や、イクメンなどの言葉があるが、日本の場合の夫の家事参加や子どもの面倒を見るのは、五分五分とはなっていない。つまり、女性が疲れすぎるのである。ただ、勘違いしていけないことは、子どもにとっての母性と父性という性差は、大事にしなければならないと思う。母乳を赤ん坊に飲ませているときの赤ん坊の目線は、母親の顔を見つめている。至福の時である。これは母性の最高の喜びと私は思っている。母乳でなければ、父親でもできるが。これからの結婚では、どちらも働いている（専業主婦であっても）ので、女性に負担の比率を高めないように話し合うことも必要であろう。そして、外部業者に頼める家事（掃除、洗濯等）を一部でもお願いすることで、子育てに疲れず子育ての楽しさ、子どもの可愛さを感じられると思う。そして、両親は子どもに教えられる（学ぶ）ことの多さに気づくはず。

日本人は行儀がよいとか、高齢者を敬い、倫理的日常が集団でも行われているとよく言われる。この原点は、家庭ではないだろうか。

日本古来の文化によるものと思うので、国際社会で日本人が恥ずかしくない行動を取るしつけは、親から始まるものと思う。子供の数が多ければ、高齢者の長寿は歓迎すべきことであるはず。育った文化の違う男女が一つ屋根に生活するなかでの

学びも大事であることを、老婆心ながらおせっかいに若者に話進めようと思っているこの頃です。

8月例会(納涼例会) 報告

日 時：8月27日(土)午後6時30分～

場 所：原田時近メン宅

参加者：メン：田村会長、河野副会長、村田副会長、原田、鈴木、荒井。メネット：原田、村田、田村。コメント：鈴木聖也、鈴木光。

ゲスト：ユースリーダー2名(じゅりあん、もっちゃん)、アジア学院ビジター・ボランティア・スタッフ9名 合計：22名。

毎年恒例の8月納涼例会は、原田ワイズのご自宅で例会を行いました。ワイズメン・メネット全員揃い、ゲストの方も沢山お越しいただき、昔の納涼例会を思い出させるほどの賑やかで盛況に開催することができました。また、鈴木ワイズのお子様、聖也くん、光くんの成長さに驚き、時間の早さを感じさせる例会でもありました。

開会点鐘と田村会長の挨拶、そして原田メネットによる食前の祈りの後、メン・メネット、そしてゲストの方々が持ち寄ってくださった豪華な料理を美味しくいただきました。また、自己紹介を皆で行い、ワイズの繋がりの大切さを改めて気づくことができました。その後、隣の部屋に移動し、「キャンドルファイヤー」を行いました。歌を歌ったり、「ロンドン橋」や「花いちもんめ」などのゲームを行ったり、ロウソクに点った火を囲みながら楽しい時間を皆で共有することができました。そして、納涼例会最後のプログラムは、オークション大会！野菜からプロ野球グッズまで品物は沢山！「100円！」「150円！」と声飛び交っていました。オークションで得た益金7,800円は熊本地震における熊本YMCA支援募金として寄付させて頂きました。皆様のご参加、そして食事等の準備など様々なご協力・ご支援頂きありがとうございます。(記録：荒井)

8月役員会報告

日 時：8月5日(金)18:30～

8月20日(土)17:00～

場 所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、田村メネット、協議事項

1. 8月例会について

8月27日(土)午後6時30分から原田ワイズ宅で行う。内容は、各自持ち寄りでソーメン(河野)、豆腐サラダ・赤飯・かぼちゃの煮物(田村)、ポテトサラダ(鈴木)、ゼリー(原田)。生野菜(ネギ、青始祖、オクラ、みょうが、ピーマン、トマト、玉ねぎ、根ショウガ、にんにく、かぼちゃ等)(紙コップ、紙皿)村田。オークションの品物各自持参。その他不足品は購入。準備のためメンバーは、17時原田宅に集合。

2. 9月例会の件

9月23日(金)午後6時30分～。日本文化に触れる。場所：遠山宗定氏宅(那須塩原市二区町369)会費1,000円。

3. 9月役員会について

9月2日(金)午後6時30分よりココス西那須野乃木店にて開催する。協議内容は9月例会、10月例会、北東部部会、その他、ブリテンの原稿

4. 9月号ブリテンの内容について

西那須野幼稚園、エルム福祉会で掲載をする。巻頭言は、河野メン。「ユースリーダーのつぶやき」。

5. 第20回北東部会・もりおかクラブ10周年記念例会出席の件

村田副会長が出席。お祝金10,000円、交通費補助としてクラブより40,000円支出する。

7. その他

・シイタケ昆布50個を8月25日に仕入れる。役員会後、パソコン講座を行った。

旧西那須野(那須西原)の緑と水(42回)

田村修也

いよいよ飲料水路工事の資金下渡の国の指令が下ったので、関係者が協議した結果、この工事を栃木県の直轄工事として実施してもらおうという事になりました。この結果を受けて、直ちに印南・矢板の両人は県庁(この時代の栃木県庁所在地は、現在の宇都宮市ではなく、栃木市であった)に向いてその旨申請しました。県においては、国の内務省土木局の直轄事業として依頼したいということになり、藤川知事がわざわざ上京して内務省と交渉しましたが、受けてはもらえず、結局栃木県の直轄事業として実施することに決定となりました。この間の事情は、当時栃木県の勤業課長であった仲田信亮から印南文作・田代次郎両人宛

ての私信によって、うかがい知ることができます。
それに記載されている事は

「那須水路測量方の儀に付、客月29日附を以て、云々申進置候通り、長官上京土木局長へ懇請相成候処、同局より、測量員を派遣するは易き事なれ共、然るときあは、諸事正規の法に依り、降手せざるを得ず、随而費用相嵩む事一倍にも至るべし、夫がため、兼て伺済の簾迄併せて取消に至る哉も難斗の恐れ有之旨、土木局内慮在由、附ては諸事は迄運び来り候順序を以て、取掛り候方可然旨、在京長官より、小生迄内知有之、事情御尤の次第と相考、依り手ては本県測量員直ちに差出可申候、前文土木局より測量員を乞胸算に付、本月1日、田辺初太郎外1人芳賀郡へ出張致し（野澤紡績場所）居り、来る14・5日迄に同所相済候間夫よりは無相違、直ちに那須原出張の事に取斗申候間、右御領承無余儀次第御推量有之候、此段御内報致し置候也。

明治14年4月4日 仲田信亮

印南 文作殿、田代荒次郎殿

追而拙官儀、博覧会御用として、来る6日出発上京致し申候。尤も滞在2週間の積もり、此便を以て勸農局用地下渡の催促、厳敷相迫り候積り。」の通りです。

4月11日には那須開墾社に於て、水路関係者の会議が開かれ、東京から三浦泰輔、山形から村井元善、その他川島 清、中村章重、吉田晴皎、田上貞質、それに那須開墾社からは、森 与平が出席しました。この会議で、水利使用について、数項にわたる申合せ契約が協議決定されました。

4月20日には、栃木県の田辺初太郎技手が水路調査のために着任して、大田原に宿泊しました。翌日21日に那須開墾社田代荒次郎、森 与平の両人が大田原の宿で測量着手の件について田辺技手と打合せをした結果、24日には測量に着手するために、田辺技手をはじめ、山形から来た河島、中村、それに森 与平、田代荒次郎等が連れ立って西岩崎村に到着し、直ちに測量を着手し、6月16日には測量を終えて、田辺技手は一先ず県に帰りました。

この測量に結果によりますと、水路引入口は細竹村赤渕で、水路は細竹村から西岩崎西端を過ぎて、小結村に入り、それから大輪地原を横断し、熊川、蛇尾川に埋樋によって、河底を通過し、箕輪、洞島、横林等の諸村落を過ぎ、一直線に南下して、西原に入り、赤田山北方において、三島開墾に注ぐ支線を分岐し、本線は千本松から那須開

墾地の中央を、一直線に南下して、一区に至って、少し左折して、一本木の那須開墾社に達し、余水は親園村に注ぐというものでした。県庁に帰った田辺技手は、直ちに設計書を作製し、諸準備を整え、いよいよ工事に着手したのは明治14年10月でした。（以下次号に続く）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園

理事長・園長 福本光夫

2015年度のご報告と展望

「答えはひとつじゃなくてもいいんだ」

（「銀の匙」荒川弘）

「東日本大震災」から5年半になろうとしています。被災された方々が希望のうちに一日も早くいつもの生活を取り戻せますように、被災地復興の為に働かれていますの方々、東京電力原子力発電所事故収束の為に現場で労されている方々の心と体の健康が守られますように祈ります。私達は、東京電力の原発事故後、除染前の外遊びの中止、園庭や畑の土の移染、建物の除染、専門家による学習会、給食用逆浸透膜浄水機の設置、園庭中央の放射線量測定、週一の園庭各所と保育室の放射線量の測定、給食の毎食一食分の丸ごと検査等、可能なことは子ども達の為に実施して参りました。放射能汚染による幼稚園附属山林観察園、キャンプ場の施設が引き続き使用できない事を園児達にはお詫びし、保護者の皆様の理解・ご協力を感謝申し上げます。また、2015年度もスタッフ一同が愛を持って、子どもたちの幸せのために努力できましたことを感謝をもってご報告します。

さて、全ての子どもたちの最善の利益と切れ目のない子育て支援ということで、「子ども・子育て支援計画」が開始され2年目を迎えました。実施主体の責任者である市町村の考え方によっても子育て支援の大きな市町村格差ができます。那須塩原市や近隣市町が子どもの現在と将来を見据えたサービスを地方創成の意味からも提供出来るよう願っています。

ところで、西那須野幼稚園は、西那須野教会附属「しらゆり幼児園」から認可幼稚園として新たに出発して、この地域教育の一端を担う働きをさせていただくようになり、今年で59年目を迎えることができました。隣の「こひつじ保育園」との幼保連携型の認定こども園「西那須野幼稚園」として5年間実施し、昨年4月から新幼保連携型

認定こども園に移行予定でしたが、子ども・子育て新制度の欠陥により、子ども達の最善の利益が担保出来ないことがわかり、認定を返上しました。尚、幼保の子ども達は合同保育を実施しています。園としては幼稚型園認定こども園を志向していきます。制度は変わっても本園を信頼して毎日通園させて下さっている保護者の皆様に感謝し信頼に応えていく決意は変わりません。

今年度、第3グラウンドに「子育て支援センター」として、キャンプ場にあったログハウスを移築しました。そして、7月より月・水・金開設のリリールームの機能を移転しました。保育士だけでなく、お母さん、保健師・看護師・カウンセラーである原明子さんが担当しています。また、年間20日程度、子どもの発達専門家である宮城教育大名誉教授長谷川茂先生が来て下さっています。アウトリーチ型(訪問型)の子育て支援も、必要に応じて実施しています。

加えて、9月からは、しょうがいのある子どもたちに更なる専門的なケアと子育て支援が出来るように「発達支援」サービスを実施し、来年度からは、しょうがいのある小学生の放課後児童クラブのプログラムも加えた「発達支援センター」を開設準備しています。幼稚園としては日本で初めてになるということです。これで、赤ちゃんから6年生までの全ての子どもたちが共に育ち合う環境が整います。

危機管理としては、安全管理上詳しくは申し上げられませんが、従来の防犯システムに加え、子どもたちや保護者の皆様の大切な個人情報管理を徹底し、流失を防止する為に、コンピュータシステムにID管理を導入しクラウド化して運用しています。

冒頭の文は、コミック「銀の匙」の一節です。去年も書きましたが大切なことなのでまた引用させていただきます。これからの時代は 正解の無い時代です。

未来学者のトーマス・フレイさんは、「20年後に、今ある仕事の50%が無くなる」と推測しています。また、デューク大のキャシー・デビッドソン教授は「2011年度にアメリカの小学校に入学した子ども達の65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」と報告しています。つまり、これからは間違いなく正解の無い時代にはなります。子どもたちが正解の無い時代を生き抜く上で、一般的な学力に加えて、より以上に非認知能力が要求されます。それでは、今

以上に必要とされる非認知能力とはどういうものなのでしょうか？ 現在いわれていることが、①折れない心(レジリエンス)、自己統制力(感情・意思・行動)、(価値観の違う人たちと)一緒にやり遂げる力です。そして、その基礎が遊びです。今までは、宮崎駿さんのトトロに代表される地域社会と自然環境があり、子どもたちは大人達に見守られ、自然の中で異年齢の子どもたちと遊ぶことが出来ていました。その環境の中で子どもたちは非認知能力の基礎が培われていました。しかし、今は地域で異年齢の子どもたちが遊ぶ環境は無きに等しい状態です。そこで、非認知能力を培う土台としての遊びが幼児期の教育に求められてきています。本園の教育内容も変えつつあります。しかし、ロンドン大学のブラッチフォード教授の報告によれば、幼児教育施設での遊びは重要ですが、それだけではダメで、みんなで乗り越える体験も大切であるとの報告をしています。本園も子ども達のこれからを考えて、行事の見直しも含め本園の教育要領の内容を今年1年掛けて改訂していきます。

最後に、地域の皆様のご協力について報告をします。

本園は、子どもたちのより良い自己形成のために、地域や他団体の方からも沢山のご協力をいただいております(コミュニティー・インクルージョン)。中学生の職業体験、五軒町区の皆様とのクリスマス会。また、更生保護女性の会の皆様には「地域親」として子どもたちとの昼食会へのご協力をいただいてから11年になります。YMCAとの協力による幼児から小学生までが実体験や遊びを通して育ち合うサタデークラブ(毎週土曜日に実施)は順調に15年目を迎えました。また、小学1~6年生を対象とした放課後学童クラブが10年目に入りました。(学園報2016.9より抜粋)

社会福祉法人エルム福祉会だより

社会福祉法人 エルム福祉会
施設長 川上 聖子

<エルム福祉会の理念・スローガン>

「キリスト教精神に則り 隣人愛をもって社会に参加する」

- 何もあげるものがなければせめて笑顔をあげよう
- 自分のことより、他人を先にしよう
- もらう人からあげる人になろう
- 稼げる人 自分の力で食べていける人になろう
- 誕生日を大切にし、生まれてきてよかったと

喜べる人になろう

・・・神様に喜ばれる人になろう・・・

7月に入り、hikarino cafe 蜂巢小珈琲店に、新しいスタッフ（利用者）が5人入ってきました。その中に、すばらしく挨拶ができるKさんがいます。

7月7日（木）から始まった「さきやあきら&みつえ二人展」の受付係が彼の最初の仕事でした。来てくださったお客様に「もしよろしかったら、お名前を書いて頂けますか」と声をかけ、書いてもらおうと「ありがとうございました」と丁寧すぎるほど丁寧にお礼を言ってくれました。そのイベントが終わり、次の仕事として、厨房でのお皿洗い・お皿ふきの仕事を頼みました。直立不動で腕をまっすぐ伸ばし、垂直に腰を曲げ「ありがとうございました」と何度もお辞儀をします。そんなに丁寧に毎回お礼を言わなくてもと思いますが、それが彼の光（賜物）です。Kさんが入ったことにより、厨房内に変化が現れました。自分のペースでしか仕事が出来ず、パターンが崩れると、怒って「もうやめます。何が何だかわからない」と度々仕事が続かなくなるNさんが、Kさんにお礼を言われることで、嬉しくなるようで、怒ることが少なくなり、笑顔が増えてきました。そして、仕事もスムーズに出来るようになったのです。

Kさん自身の仕事のスピードは遅いかもかもしれません、しかし、彼の賜物は確かにその場の空気を換えたのです。ここに、神様の業を見ます。私たちの思いを超えた、神様の働きです。Kさんの賜物に、みんな癒され、和ませられています。

これからも、スタッフ一人ひとりの光を注意深く見ていきたいと思っています。

東京目黒クラブ8月例会に参加して

副会長 村田 榮

8月27日（土）午前11時から午後3時までの日程で東京目黒クラブの8月例会にメネットともに出席しました。会場は、村野さん宅で行われました。目黒クラブ50年と題し、50年の間に目黒クラブにゆかりのあった方々18名が集まりました。村野絢子さんが準備してくださった美味しい手料理に舌鼓を打ちながら、目黒クラブ50年のビデオを見せていただき、出席者の自己紹介とチャーターから50年の目黒クラブの活動一コマコマについて話は尽きませんでした。これからの目黒クラブの在り方についての話まではいきませんでした。名残惜しみ村野さんご夫妻に感謝。

那須クラブの例会に出席のために村野さん宅を失礼をした。

東京目黒クラブだけの問題でなく、那須クラブも然りメンバー増強は大きな課題であり、緊急の課題であると感じました。

今後の予定

・9月役員会

日時：9月2日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：9月例会、10月例会、10月号ブリテンの発行等。

・9月例会（納涼例会）

日本の文化にふれる part1「茶道」

日時：9月23日（金）午後6時30分～

場所：那須塩原市二区町369 遠山宗定氏宅茶室「清雪庵」（桜井農園となり）

Tel 0287（36）4363）

会費：1,000円（夕食代・謝礼を含む）

準備の都合があるので、参加希望者は人数を9月13日（火）までに田村会長まで連絡のこと。

・北東部会・もりおかクラブ10周年記念例会

日時：9月17日（土）午後1時～

場所：ホテルメトロポリタン盛岡

参加費：9,000円（震災復興募金含む）

・10月役員会

日時：10月7日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：10月例会、11月予定の確認、ブリテンの発行等。

・10月例会

日時：10月8日（土）・9日（日）

場所：アジア学院

内容：アジア学院収穫感謝祭への出店

・東京目黒クラブの予定

9月例会：9月14日（水）午後1時30分～

YMCA報告

【とちぎYMCAサマープログラムが終了しました！】

7月中旬よりスタートしましたとちぎYMCAサマープログラム（ウェルネスプログラム・イングリッシュプログラムを含む）が予定通り実施され、無事に終了いたしました。今年は何と300名を超える子どもたちが参加し、プログラム中、有意義な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることができました。那須YMCAでは、大学生のユースボランティア



リーダーが各プログラムに参加し、それぞれの役割の中で子どもたちと向き合い、共に過ごしました。

YMCAのプログラムにはCaring（やさしくする）、Honesty（しょうじきになる）、Respect（人を大切におもう）、Responsibility（できることは自分からする）というYMCAで大切にしている4つの想いが込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれらを感じ考えてくれたらとても嬉しく思います。また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされることを願い、今後もプログラムを展開していきます。

【フィリピン ナボタス・タラ村交流キャンプ2016報告】

今年も8月15日から22日まで1週間フィリピンのナボタスとタラに行ってきました。今年には日本人9名のキャンパーとナボタスの青年、タラのホーリーローサリー大学に通う大学生と共に毎日いろいろな活動をしました。ナボタスでは、ナボタスの歴史や私たちが泊まっていたサンロレンソ教会の歴史について学び、現在のフィリピンの問題についてみんなでディスカッションをしました。



そこで挙げられたのがドラッグの問題でした。ドラッグの問題点やその原因である貧困、現在の政府によるその問題の解決策が殺害することか自首させることであること、真の解決策は雇用を促進することであることを訴えたミュージカルを、キャンパーみんなでやりました。コミュニティの代表の方々も多数見に来てくれました。タラでは、タラの歴史やハンセ

ン病について学びました。また、今年はピースセミナーも行い、日本とフィリピンの戦争の歴史についてみんなで学び、その後、キャンパーだけでなく、ホーリーローサリー大学の学生と共に世界の平和をお祈りました。

そのほかにも、ホームステイをしたり、スラム街を見学したり、マニラを見学したりしました。たった1週間でしたが、フィリピン文化にふれ、青年たちとの交流もできました。

私たちの友情こそが平和を築くことを実感したキャンプになりました。

（感想：キャンパー 大塚）

ユースリーダーのつぶやきコーナー

【じゅりあんリーダー 吉田 朱里】

私は主に月1回のYキッズや、シーズンプログラムに参加しています。活動を通して子どもたちから様々なことを学ばせてもらい、たくさんの元気をもらっています！活動を重ねていくにつれ、子どもたちからも覚えてもらえるようになり、たくさん名前を呼んでもらえることが、なによりも嬉しいです！また、台風の被害を受けたフィリピンのタンバリザ地域のワークキャンプに参加させていただきました。初めての海外ボランティアということで、言語や食事、習慣などの違いから不安もたくさんありました。しかし、タンバリザの方々はとても温かく受け入れてくださりました。



支援をするという事は、募金活動を行い、お金を援助することだけではなく、実際に被害にあった地域へ行き、被害にあった方

と話し、現状を知り、帰ってきてから自分が感じた事や、現状を発信し、共有していくことが長く支援していくことに繋がるのだと学びました。

YMCAの活動は普段経験できないような事を多くする事ができ、また日本だけでなく、世界中の人も関わる事ができ、成長することができる場だと思えます！